

ちょっと気になる子への支援



久留米市 子ども未来部 幼児教育研究所

視覚的な支援や環境の調整などの配慮を行うと、子どもたちは「いつ」「どこで」「何を」「どのように」行動すればよいか分かり、安心して落ち着いて行動しやすくなります。

幼児教育研究所で行っている具体的な支援のうち効果のあった4つをご紹介します。

園や子どもたちの実態に合わせて工夫・改善して活用していただければ幸いです。

1 環境づくり

見てわかる場づくり

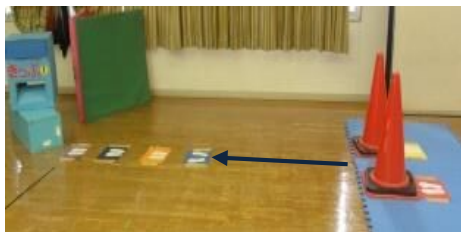
活動によって場所を変えたり、活動の順序に沿って物を配置したりすることは、何をすることが見てわかり、自分から活動に参加することにつながります。



椅子に写真やシールを貼って自分の場所を明らかにしたり、足型を置いて並ぶ場所を示したりすることは、自分がいるべき場所がわかり、自分で活動することにつながります。



待つ場所
(足型)



活動の内容や順序が視覚的に
わかる配置

集中する環境づくり

カーテンの利用



カーテンで覆ったり、パーティションを置いたりすることは、活動に必要な物以外を見えなくします。集中して活動に取り組むことにつながります。

パーティションの利用



注目する環境づくり



机やイスに写真を貼ると自分の場所に注目しやすくなります。

足型や矢印を置くと、並ぶ場所や動きがわかるので、自分で活動することにつながります。

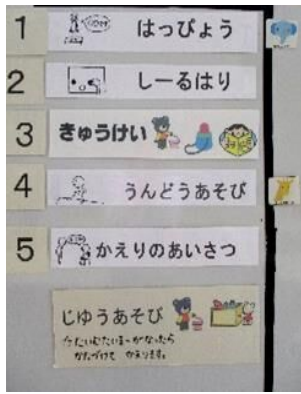


矢印があると動きがわかる

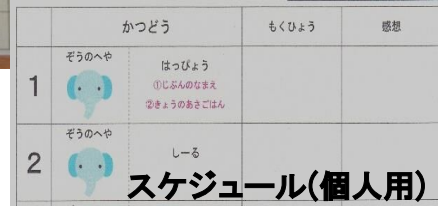
足型があると並ぶ
場所に注目できる

2 生活の見通し

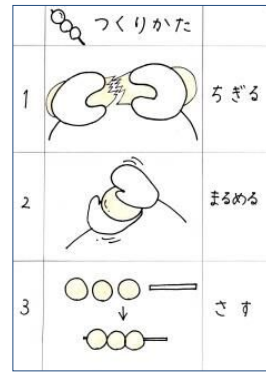
スケジュール(全体用)



予定をホワイトボードに書いたり、手順をイラストで示したりすると、次に何をするかがわかります。見通しが持てると、安心して活動に取り組むことができます。



手順書



3 ルールの提示



お約束カード

声の大きさを数字や絵を用いた「声のものさし」を使ったり、望ましい姿をイラストを用いて示したりすると、子どもが目で見えてルールをわかるようになってきます。

4 わかりやすい指示

タイムタイマーなどを使って活動の時間を視覚的に示したり、事前に活動の終わりを予告したりすることは、子どもが活動の流れに見通しをもって活動することにつながります。



タイムタイマー



活動が終わるごとにスタンプを押す台紙

子どもとかかわるときに大切にしたいこと

子どもによっては集中する時間が短いため、

- ・ 話をする前に子どもの注目を集める
 - ・ 短く分かりやすい言葉で話す
- ことも大切です。

また、

- ・ 一人一人の子どもの良さに目を向けてかかわる
 - ・ 子どもの行動の背景や意味を考える
 - ・ 好ましい行動に注目して具体的にほめる
 - ・ 「必要なこと」や「今できること」からまず始める
- ことは、どの子に関わるときにも大切にしたい視点です。



久留米市子ども未来部 幼児教育研究所

〒 830-0042 久留米市荘島町1-1 (総合幼児センター2階)

電話 35-3812 FAX 35-3886 (HPもあります)

メールアドレス yohken@city.kurume.fukuoka.jp

